

二宮町第2次環境基本計画
中期実施計画（29年度）の進捗状況について
（最終版）

平成30年12月（予定）

二 宮 町

目次

I	二宮町第2次環境基本計画について	1
1.	計画期間	1
2.	基本理念	1
II	施策体系	2
III	評価について	3
1.	評価の表し方について	3
2.	平成29年度評価について	3
IV	基本施策別進捗状況及び評価	4
1.	生物多様性の保全	
	多様な緑と水による自然の恵みが豊かなまち	4
2.	循環型社会の実現	
	環境にやさしい循環型のまち	5
3.	低炭素社会の形成	
	地球環境の保全に取り組むまち	6
4.	計画の推進方策	
	3つの基本目標に共通する取組み	7
V	平成29年度進捗状況に対する二宮町環境審議会の意見	8
	<はじめに>	8
	<平成29年度全体評価>	8
	<基本目標別意見>	8
	1. 生物多様性の保全について	8
	2. 循環型社会の実現について	9
	3. 低炭素社会の形成について	9
	4. 計画の推進方策について	9
	<基本目標全体意見>	10
資料	二宮町第2次環境基本計画中期実施計画	
	平成29年度進捗状況一覧	11

I 二宮町第 2 次環境基本計画について

1. 計画期間

計画期間は、平成 24 年度～平成 34 年度とし、本計画に基づく実施計画は次のとおりです。平成 29 年度は、中期の開始年度（2 年度目）です。

計画期間区分	対象期間
前期	平成24年度～平成27年度
中期	平成28年度～平成30年度
後期	平成31年度～平成34年度

2. 基本理念

『のこしたい・つたえていきたい・ふるさとを

～里山・里地・里川・里海と暮らすまち へのみや～』

自然からの恩恵だけでなく、自然災害など自然の力も含め、人と自然が共生する環境のまち（ふるさと）をめざし、二宮町が有する豊かな自然環境を大切に育むことを通じて、まちへの愛着を育むことを基本理念としました。

この基本理念を実現するため、3 つの骨太の柱となる基本目標を設定し、二宮町の自然・社会環境を生かしながら、将来に残したい環境の保全や創出に向けて、町民・事業者・町が一体となって取り組んでいきます。

基本目標（3つの骨太の柱）

<p>1.生物多様性 の保全</p> <p>多様な緑と水による 自然の恵みが豊かなまち</p>	<p>2.循環型社会 の実現</p> <p>環境にやさしい 循環型のまち</p>	<p>3.低炭素社会 の形成</p> <p>地球環境の保全に 取り組むまち</p>
----------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------

II 施策体系

二宮町第2次環境基本計画実施計画【中期】（平成28年度～平成30年度）では、環境基本計画で立てた骨太の柱となる3つの目標に加え、3つの目標に共通する取組みを、「4.計画の推進方策 3つの基本目標に共通する取組み」として位置づけ、18の基本施策を設定し、それらを実現するため64の事業を設定しました。

基本目標	基本施策	事業数	
1.生物多様性の保全 <small>多様な緑と水による自然の恵みが豊かなまち</small>	1-1. 吾妻山の保全と魅力の向上	1	21
	1-2. 丘陵地や谷戸などの保全	6	
	1-3. 水と親しめる葛川の再生	7	
	1-4. 二宮海岸の保全と魅力の向上	5	
	1-5. 良好な自然を象徴する動植物の保全	2	
2.循環型社会の実現 <small>環境にやさしい循環型のまち</small>	2-1. リデュースの促進(ごみの発生や排出の抑制)	4	17
	2-2. リユースやリサイクルの促進	4	
	2-3. ごみの適正な処理・処分の推進	4	
	2-4. 不法投棄防止の推進	2	
	2-5. 地産地消の促進	3	
3.低炭素社会の形成 <small>地球環境の保全に取り組むまち</small>	3-1. 省資源・省エネルギー活動の促進	8	16
	3-2. 自然エネルギーの活用		
	3-3. 緑化や雨水利用などによる環境の保全	3	
	3-4. 環境保全による安全なまちづくり	2	
	3-5. 快適な生活環境の向上	3	
4.計画の推進方策 <small>3つの基本目標に共通する取組み</small>	4-1. “町民・事業者・町”による計画推進	4	10
	4-2. “横断的な取組み”による計画推進	2	
	4-3. “学習・情報共有”による計画推進	4	
総事業数		64	

Ⅲ 評価について

1. 評価の表し方について

実施計画の進捗状況の評価するため、評価指標を設定し、事業ごとの評価を行いました。さらに計画全体の実施状況を数値で把握するため、各評価指標を点数で表すことにしました。

評価指標		評価点数
A	事業の目的を達成できた、または同等の成果が得られた。	3点
B	計画通り実施し、一定の成果が得られた。	2点
C	計画通り実施できず、ほとんど成果が得られなかった。	1点
D	計画未実施	0点

基本施策、基本目標、全体の評価点数は、上記の設定で平均値を算出します。数式で表すと次のとおりです。

$$(A\text{の数} \times 3 + B\text{の数} \times 2 + C\text{の数} \times 1 + D\text{の数} \times 0) \div (\text{総事業数} - \text{保留事業数})$$

2. 平成 29 年度評価について

平成 29 年度の全体平均評価点数は、前年度（28 年度）の 2.35 と比べ 0.04 ポイント上回りました。

基本目標	A(3点) の事業数	B(2点) の事業数	C(1点) の事業数	D(0点) の事業数	基本目標別 評価点数	全体平均 評価点数
					(Aの数×3+Bの数×2+Cの数×1+Dの数×0) ÷(総事業数-保留事業数)	
1.生物多様性の保全 <small>多様な緑と水による自然の恵みが豊かなまち</small>	5	16	0	0	2.24	2.39
2.循環型社会の実現 <small>環境にやさしい循環型のまち</small>	7	9	1	0	2.35	
3.低炭素社会の形成 <small>地球環境の保全に取り組むまち</small>	6	8	0	0	2.43	
4.計画の推進方策 <small>3つの基本目標に共通する取組み</small>	7	3	0	0	2.70	
事業数 計	25	36	1	0		

IV 基本目標別進捗状況及び評価

1. 生物多様性の保全

多様な緑と水による自然の恵みが豊かなまち

「生物多様性の保全」については、里山・里地・里川・里海という多様性に富む豊かな自然を大切に保全し育み、自然と人間が生活の様々な場面で共生することを目指し、事業の推進に取り組みました。

「丘陵地や谷戸などの保全」では、里山や里地の自然環境と動植物の保全を図るため、里山体験イベントや二宮町せせらぎ公園でのホテル観賞会を実施しましたが、一部のイベントについては荒天による影響で開催できず、計画事業に掲げた目標値の達成には至りませんでした。一方、イベントの実施にあたっては、ボランティア団体の協力を得る過程での情報交換により、団体との連携を深めることができました。

「水と親しめる葛川の再生」では、家庭や事業所等からの排水による水質汚濁の未然防止を図るため、河川水質調査を実施し、測定結果を町ホームページで公開したほか、葛川再生に向けた取り組みとして、台風による中止を除き、ボランティア団体の協力による葛川清掃が予定通り実施できたことで、延べ 895 kgもの河川投棄ごみを回収することができました。一方、葛川サミットにおいては、自然環境維持を目的とする葛川環境モニタリング調査を実施しましたが、事業計画に位置付けた啓発イベントを実施することができませんでした。

「二宮海岸の保全と魅力の向上」では、海岸の環境づくりを図るため、「湘南にのみや海岸530（こみゼロ）キャンペーン」を継続実施するとともに、釣り客や地引網で排出されるごみの処理や持ち帰りマナーの向上を図るため、町職員による海岸清掃の期間を1か月延長して実施するとともに、啓発看板の設置や補修を行ったことで、評価がBからAに上がりました。今後も海岸漂着物等の撤去と連携し、ごみを捨て難い環境を整備することで、さらなる海岸の魅力向上を目指してまいります。

「生物多様性の保全」の評価点数については、2.24点であり、前年度の2.19点から0.05点上回る結果となったため、計画通りの進捗が図れたことにより、一定の成果が得られました。

2. 循環型社会の実現

環境にやさしい循環型のまち

「循環型社会の実現」については、ごみの減量化や資源化等を推進するとともに、生産・流通・消費の循環を町内で形成していくことを目指し、事業の推進に取り組みました。

「リデュース、リユース、リサイクル（3R）の推進」では、ごみ減量化並びに資源の有効利用の促進を図るため、広報紙、ホームページ、チラシ等による啓発のほか、「湘南にのみやふるさとまつり」や「エコフェスタにのみや（旧環境づくりフォーラム展）」等のイベントでのPRを通じ、「水分もうひとしぼり運動」や「生ごみ処理機」等の普及啓発が図ることができました。また、剪定枝については、「二宮町ウッドチップセンター」での処理が安定的に行えている一方で、「剪定枝チップパー機」の貸出が故障により不能となったため、計画事業に掲げた目標値を達成できず、評価がBからCに下がりました。

「ごみの適正な処理・処分の推進」では、循環型社会の実現に努めるため、「一般廃棄物処理基本計画」の継続的な推進により、計画目標の1つである「資源化の目標」を達成できたほか、「不法投棄防止の推進」では、ごみを捨て難い環境を形成するため、監視パトロールにおける県との連携や不法投棄物の撤去を行うこととともに、鳥居型の啓発看板の設置を試みました。

「地産地消の促進」では、「ごみ減量化推進協議会」における検討から、食べ残しゼロ運動を推進する一環として、「エコ・クッキングレシピ」をホームページに掲載する等、「食品ロス」を削減する観点から町民を対象とした啓発機会を大幅に増やしました。今後は、さらなる食品ロスの削減に向け、リデュースの要素を加えた啓発内容について検討してまいります。

「循環型社会の実現」の評価点数については2.35点であり、昨年度の2.47点から0.12点下回る結果となりましたが、先述の「剪定枝チップパー機の貸出」のC評価を除き、各事業の評価がB以上となりますので、概ね計画通りの推進が図られたことにより、一定の成果が得られました。

3. 低炭素社会の形成

地球環境の保全に取り組むまち

「低炭素社会の形成」については、地球全体の持続可能な社会を実現するための課題である二酸化炭素排出量の削減を目指し、省資源・省エネルギー活動の促進や環境保全の啓発に取り組みました。

「省資源・省エネルギー活動の促進」では、ムダな電力消費等の節約として「ITふれあい館」を「生涯学習センターラディアン」に統合したことで、公共施設の電気使用量を目標値よりも大きく削減しました。

また、「地球温暖化防止運動の啓発」を推進する一環として、温暖化防止対策のための国民運動「COOL CHOICE（＝賢い選択）」に賛同することを町として宣言し、県や企業協力のもと、「湘南にのみやふるさとまつり」や「吾妻山菜の花ウォッチング」等のイベントで、エコドライブの推進やエコカーの普及啓発を実施するとともに、「COOL CHOICE」の賛同を町民に呼び掛けることにより地球温暖化防止対策のための基盤づくりを推進したことで計画事業に掲げた目標値を達成できたことから、評価がBからAに上がりました。

その他、環境負荷の少ない交通の利用促進を図るため、コミュニティバスの再編と合わせ、新たな時刻表とルートをもとめたチラシ等を作成して配布するとともに、割引手形や回数券等の新たなサービスを導入した他、車両の仕様及びデザインを一新して愛称を募集する等、幅広く周知を行いました。今後は、コミュニティバスの乗降データから詳細な利用状況を把握してルート等を精査することで利便性の向上を検討するとともに、人口減少の加速による公共交通の縮小に備え、「スマートムーブ」の啓発等による公共交通全体としての利用促進を図ってまいります。

「低炭素社会の形成」の評価点数については2.43点であり、前年度2.36点から0.07点上回る結果となったため、計画通りの推進が図れたことにより、一定の成果が得られました。

4. 計画の推進方策

3つの基本目標に共通する取組み

「計画の推進方策」については、町民・事業者・町の3者が連携・協力して、環境に関する取組みを横断的に広げ、継続できるように事業推進に取組みました。

「“町民・事業者・町”による計画推進」では、「二宮町第2次環境基本計画実施計画」を推進するため、事業評価並びに推進状況について、「環境審議会」からの意見を聴取し、改善・見直しを行うとともに、後期実施計画の策定に向け、課題点に対する対応等について審議しました。また、事業者との連携として、「エコフェスタにのみや」でのブース出展や「湘南にのみやふるさとまつり」でのエコカー展示などを実施しました。

「“横断的な取組み”による計画推進」では、町民活動団体間でのネットワークづくりを図るため、町民団体の活動拠点として「町民活動サポートセンター」の運営を継続するとともに、利用率を向上させるため、広報紙やホームページでの啓発のほか、団体間の情報交換を活性化するため、サポートセンター内の掲示板を改良しました。

「“学習・情報共有”による計画推進」では、「小中学校と環境保全団体等との連携による住民参加型環境教育の実施」において、環境学習のさらなる充実を図るため、職員による小学校での出前講座の開催や、例年、小学生を対象に実施している「エコライフチャレンジ」による啓発を中学生まで拡大できるよう学校に協力を要請したほか、継続実施が困難となった廃食油を用いた「石鹸づくり」の代替として、夏休みに企業協力による「夏の子ども環境教室」を新たに実施したことで啓発回数が目標値を達成したため、評価がBからAに上がりました。今後も、小中学校や町内事業者、環境団体との連携を充実しつつ、環境教育のより効果的な実施を推進してまいります。

「計画の推進方策」の評価点数については2.70点であり、前年度の2.50点より0.20点上回る結果となったため、計画通りの推進が図れたことにより、一定の成果が得られました。

V 平成 29 年度進捗状況に対する二宮町環境審議会の意見

(平成 30 年 8 月 29 日)

<はじめに>

二宮町環境審議会では、「二宮町第 2 次環境基本計画中期実施計画」の平成 29 年度における進捗状況について審議し、以下のとおり意見を取り纏めましたので、今後の計画推進にあたっては、当審議会意見に配慮され、改善に取り組んでください。

<平成 29 年度全体評価>

平成 29 年度の全体評価については、PDCA サイクルによる継続的な改善もあって概ね良好と認められますが、各事業の推進にあたっては、個別の事業推進にとどまらず、事業間連携など、横断的な取組みにより相乗効果が発揮させるように努め、さらなる計画推進が図られることを望みます。

<基本目標別意見>

1. 生物多様性の保全について

- ①「ふれあい農園事業（1-2-③）」については、全区画が貸出できているものの、遊休・荒廃農地は未だ解消できておらず、対策が必要と思います。農地は本来農業者が管理すべきものですが、高齢化等により農業者のみで管理することは難しいと思われるので、ふれあい農園の面積を拡大し、貸出枠を増やしてはどうでしょうか。
- ②「下水道の普及促進（1-3-②）」については、目標値である水洗化率のみを記載し、水洗化率の計算の内訳を確認できない状態となっています。目標値の変動原因が水洗化率の計算式の分母である接続可能世帯数を増やしたことによるものなのか、以前から接続しない接続可能世帯への促進が不足していたことによるものなのかが分からないので、水洗化率の内訳を明記した方がよいと思います。
- ③「葛川美化推進事業（1-3-⑤）」については、回収量の減少が川の清浄化によるものか実施回数の減少によるものかが分からず、評価の妥当性が判断し辛いので、評価説明に判断した理由を明記してはどうでしょうか。
- ④「松の保全事業（1-4-②）」については、現存する松への薬剤注入の効果により新たな被害木発生を食い止めているが、過去のこゆるぎ海岸の景観を取り戻せていないため、民有地への植樹を促進に取り組んではどうでしょうか。
- ⑤「自然環境を知るための講座開催（1-5-①）」については、「こどもチャレンジ教室」や「町民大学講座」での環境学習を行っているが、より一層の環境学習の推進に向けての取組みが必要と考えられるので、学校や町民などが選択して実施できる出前講座を開設することを考えてもよいと思います。

2. 循環型社会の実現について

- ①「水分もうひとしぼり（2-1-②）」については、目標値の達成まで約10%の削減が必要だが、ここ数年での削減率に伸び悩みがあることから、抜根的な対策の必要があると思います。
- ②「生ごみ処理機の導入促進（2-2-②）」については、処理機から生成される堆肥の成分に偏りにあるに加え他人の食べ残しを含めた残渣を原料とする堆肥の商業利用は衛生的な観点から好まれないため、「地元産品の循環型（2-5-③）」との連携が難しいため、自ら処理した堆肥を活用できる「ふれあい農園事業（1-2-③）」とのさらなる連携を推進してはどうでしょうか。

3. 低炭素社会の形成について

- ①「環境負荷の少ない交通の利用促進（3-1-⑥）」については、目標であるコミュニティバスの利用者数の達成まで52（人/日）の増が必要だが、昨年度からの乗車人数の上昇に伸び悩みがあることから、目標値を実現可能な数値まで引き下げることや数値目標の見直しが必要だと考えられます。また、普及・啓発等の事業の多い基本目標3の中で具体性のある数値指標が設定されている事業なので、仮に数値目標の見直しを行うのならば、バス利用者と同人数が自家用車を利用した時のCO₂排出量を取組による削減効果とするなどはどうでしょうか。
- ②「公害防止対策事業（3-5-②）」については、騒音測定の結果、比較的良好な生活環境となっていると思いますが、騒音の発生源から近距離にお住まいの要介護者の方や小学校がある場合には個別に対策してはどうでしょうか。

4. 計画の推進方策について

「計画の推進方策」に位置付けられた各種事業については、目標の主旨が「環境への影響」ではなく「連携と協力」を主眼としたものとなっており、「基本目標1～3」に位置付けられた事業とは目標設定の仕方が異なるものではないかと思います。現行計画においては、他の基本目標の事業においても事業の実施にあたり、連携と協力を要するものが多数含まれていると思われるので、こちらに「計画の推進方策」の要素を組み込み、全体に係る軸として評価していくなどの見直しについても「後期実施計画」を策定する際に、検討してはどうでしょうか。

＜基本目標全体意見＞

計画に位置付けられた事業の多くが、平成 29 年度と平成 30 年度の事業計画に課題が示されているにも関わらず、事業計画が全く同じものが多いように読み取れるが、目標達成に向けてどこが問題でどのように解決するのかということを具体的に示すことで課題と次年度事業計画がつながるような計画推進をした方が良いと思います。

また、各事業の指標にばらつきがあり、事業毎に評価 A の意味が異なっているように感じるので計画事業の評価の公平性をどのように担保するのかの検討も必要だと思います。

以上